

## 第288回昭和の森 自然観察会

### 里山のくらし「稻わらでリースや正月飾りを作ろう」

須田 聰恵（千葉市）

日 時：2015年12月13日（日）

参加者：59名（大人41名・子ども18名）、指導員10名

担当指導員：木嶋恵子、須田聰恵

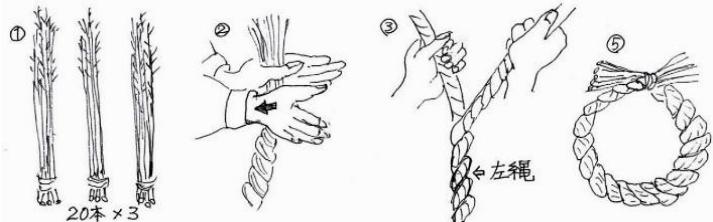
午前中に急逝された12月担当の綾 富美子さんに指導員全員で黙祷。

木嶋さんが担当指導員になっていただきました。

天気続きだったのに当日は生憎の雨！10月と11月の観察会は雨で中止続きだったので、今月は雨でも室内で実施すると決めていました。市政だよりは「雨天中止」と掲載されていたので数名かな？と思っていたら、来るわ来るわ！何と59名も。室内だけでは狭いので指導員はロビーにシートを敷き、藁を打ち、藁を数え、資料の追加印刷などをして、協力会の方はストーブの用意を～と対応に追われ、嬉しい悲鳴でした。暖かい室内にぎゅうぎゅう詰めになりながら、全体で「人々の暮らしと稲作の関り」について知りました。中国から稲作が伝わったことを話した子どもさんがおり、皆さんのが和やかになりました。お米を収穫した後の藁は、縄をはじめとして人々の生活の衣(食)住に様々な工夫をして使われてきたことを現在と比較しながら説明。それに付け加えて、今年は藁を手に入れるまでが大変でした。<大変だった理由：昭和の森ビオトープの稻わらが、長雨の為収穫後カビが生えてしまい、使えなくなってしまったこと。帰省した折にもらおうと思ったら「高齢化が進んでコンバインで細かく刻んでしまった」と。大網のJAにあったが短い。土気の農家でもらったが節が折れているのが多く～。最後、大草で活動している芳我さんにお願いして古代米のもち米の藁を分けていただけたことに感謝！>を話しました。そして、今回は「神事」の中の飾りを作ることを目当てに、藁すすぐりの手間を掛けて使えるきれいな藁にしていく過程も実際に見てもらいました。作業には手狭なので、ロビーに移動し、2グループに分かれました。

先ずは、輪飾りの基本「縄ない」をしました。今年は植木鉢トレーに水を入れ、手を濡らしながらやったので、藁の持ち方とよじらせるタイミングを覚え、上手に仕上げて、継ぎ足して長い縄をなってしまう人もいました。

いよいよしめ飾り作りの本番です！



①藁20本を1束にして3束で作りました。

②最初は2束で。右足で2束の元を一緒にしつかり押さえ、藁をそれぞれ手前にねじり

③左巻きになっていきます。3束目も手前に撫り、②の縄に左巻きに巻き付けていき、穂先を上にして重ね、輪にして止めました。ハサミで飛び出している藁を切り、アイディアとバランスを考えて素敵に飾りつけをしていました。オリジナルの輪飾りを作り終え、どなたも満足気でした。

感想：ほとんどの人が楽しかった！来年も来たい。5年生位のお子さんの「農家の人の大変さが分かったように思います」と言ったのが印象的で、実施して良かったと思いました。また、若い家族



がインターネットを見てたくさん参加し、しめ縄作りを体験できたことは、嬉しいことでした。